

## 第2学年国語科学習指導案

日 時 平成24年10月11日(木) 5校時  
児 童 2年生11名(男子6名, 女子5名)  
指導者 佐賀 敦子

### 1 単元名 音読げきをしよう

教材名 「お手紙」 アーノルド＝ローベル 作 (光村図書 2年下)

### 2 単元について

#### (1) 児童について

児童は、教材「ふきのとう」を通して、会話文と地の文を分けて読んだり、登場人物を役割分担して読んだりしながら、人物の様子に気を付け、声の大きさや速さなどを工夫して音読する学習を行った。この言語活動により、どうしてそのように読みたいのか、言葉や文に根拠を示して、理由付けながら読み方を考え、想像したことを自分の音読表現に生かす流れを学ぶことができた。また、教材「スイミー」を通して、想像を広げて物語作品を読み、自分の経験と結び付けながら感想を書く学習を行った。この言語活動により、中心人物がしたこと・言ったことに注目して書き抜き、それをもとに場面の様子を想像してスイミーに言ってあげたいことを書くことができた。

しかし、音読に表現するための理由づけのもととなる文章を的確に示すことができない児童や、行動や会話に着目できても、全体をつなげて場面の様子を想像することが困難な児童もみられた。

以上の実態から、現段階での本学級の児童に育てたい力は、大事な言葉や文を根拠にしながら、想像を広げて場面の様子を読む力であると考えられる。

#### (2) 単元の指導事項

児童の実態に即し、本単元では、第1・2学年「C 読むこと」における以下の指導事項を、育てたい言語能力としてより詳細にとらえ、単元を通して具体的に指導していく。

#### ◆育てたい言語能力◆

##### 読むこと

○語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。 【読(1)ア】

- ・内容的なまとまりや区切りを意識し、言葉の響きや抑揚に気をつけて音読する。

○場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。 【読(1)ウ】

- ・誰が何をしたか(行動)、誰が何を言ったか(会話)に着目して読む。

#### (3) 教材について

本教材は、お手紙をもらえずに悲しんでいるがまくんが、かえるくんからのお手紙の中身を知ることによって、親友のありがたさを感じ幸せに思うお話であり、親友のあるべき姿がテーマとなっている。友達の不幸せを一緒に悲しみ、幸せを共に喜ぶほのぼのとした心情が描かれている。児童は、自分と重ねたり自分ならどうするかなと考えたりしながら、友達どうしの心の交流に共感して読むことであろう。友達との関わりが強くなり始めるこの時期だからこそ、興味をもって読み進められる作品だと考える。また、本教材は、かえるくんとがまくんの行動を中心に、場所や時間の移り変わりがはっきり描かれた作品である。そして、登場人物が少なく会話文が多いため、人物の心情やその変化を理解しやすい。会話の際の二人の位置、距離、しぐさ、顔の向きを考えることで、二人の心情と心の通い合いを豊かに想像させ、読み取ることができると思われる。

以上のことから、それぞれの場面で登場人物の行動や会話文に気をつけ、場面の様子を想像しながら読み、音読劇をすることに適した教材であると考えられる。

(4) 本単元の指導にあたって

本単元の最終的なねらいは、場面の様子について、登場人物の行動や会話を中心に想像を広げながら読み、工夫して音読劇をすることである。簡単な動作もつけて演じる音読劇は、児童にとっても学習意欲を喚起する言語活動となるであろう。

そこで、児童の実態と育てたい言語能力とを考慮し、以下のような単元の指導を計画した。

**<単元を通じた言語活動>**

音読劇をする。

**第1次（2時間）** ……単元のめあてを知り、学習の見通しをもつ。

はじめに、これまで学習してきた教材と比べたクイズを出しながら、登場人物の人数に対して会話文が多い作品であることを確かめる。その特徴を生かして、「音読劇をする」という単元名を確認する。そして、教科書16ページの学習の手引きをもとに、「音読劇＝声と簡単な体の動きとでお話を表すこと」を共通理解させる。音読劇の仕方をイメージしやすいように、モデルVTRを視聴させ、登場人物になりきるのはおもしろそうだという気持ちを持たせる。なりきるためには、作品設定や登場人物の行動の様子を理解することが必要となることを知らせ、リード文を読んで「誰が何をするのか」「誰がどんなことを言うのか」を確かめながら、そのときの様子を考えて声に出して読んでいくことを確認する。

次に、音読劇に向けた一連の学習計画を立てて、3次の音読劇発表会への見通しをもたせていく。

**第2次（6時間）** ……教材文「お手紙」の場面の様子や人物の行動・会話を読み取り、  
音読劇をする。

第2次では、始めに範読を聞き、挿絵の並べ替えを通して大まかな流れを理解させた上で場面分けをする。そして、センテンスカードの並べ替えを通して、作品の設定や簡単な全体構造を整理させる。また、登場人物のマークを書き込む活動を通して、会話文と地の文を区別したり、誰の会話文かを確かめていく。

第2次の2時間目以降は、音読劇の仕方とその手順を知り、実際に読み方を工夫しながら練習し、音読劇の発表を行う。4つの場面に区切るが、あくまでも行動と会話を読むことをねらいとし、一単位時間に一場面を取り出して読んでいく。

音読劇に表すために、学習プリントの教材文から行動と会話を見つけてサイドラインを引き、その文をどのように読みたいか、またそう思う理由を書きとめていく活動を行う。個人で考えたあと、書いたことをグループで検討することにより、個人の読みの確かさを全体で検討し、より確かな読みへと高めていく。また、登場人物の様子が聞き手に伝わるような音読の仕方（読む速さ、間の取り方、声の強弱や抑揚の工夫）を確認し、体の動きについても考えながら練習に取り組ませる。

**第3次（4時間）** ……並行読書の作品から選んで音読劇を行う。

並行読書してきた作品の中からグループで一つを選び、音読劇に表す。2次で行ったように、行動と会話に着目し、書き込む活動も取り入れ、根拠を明らかにしながら、劇の仕方を考えさせていく。その後、3グループの交流を通して、どのような読み方から登場人物のどのようなことが分かったか、互いに発表させながら音読劇の振り返りを行う。そして、改めて行動と会話をしっかり読むことの大切さを確認していきたい。

アーノルドローベル作

「がまくん」と「かえるくん」が登場する作品の並行読書

3 単元目標及び指導計画・評価規準（読む12時間）

単元の目標		<p><b>国語への関心・意欲・態度</b> ○音読劇に興味をもち、会話文の多さを生かして音読劇に表そうとしている。</p> <p><b>読むこと</b> ○場面の様子が表れるように、人物の行動や会話文に着目して音読することができる。【読(1)ア】 ○時、場所、人物、出来事や、場面毎の様子を、人物の行動や会話文に着目して読み取ることができる。【読(1)ウ】</p> <p><b>伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項</b> ○主語と述語の関係を理解することができる。【伝国(1)イ(カ)】</p>	
次	時	主な学習活動	評価規準（評価方法）
第1次 みと おす	1	○単元名とリード文、学習の手引き（P.16）を読み、誰が何をし、どんなことを言うか、様子を考えて「音読劇をする」という学習の見通しをもつ。 ○モデルVTRを見て、音読劇の仕方のイメージをつかむ。	【関】興味をもってモデルVTRを見ながら、音読劇への意欲を高めている。（発言・観察）
	2	○3次の活動を見通した学習計画を立てる。 ○3次での音読劇に向けて、並行読書を行う意味を確かめ、並行読書を始めることを確かめる。	【関】最後の発表会へ向けた学習の内容をとらえている。（発言・観察）
第2次 ふ か め る	3	○範読を聞き、挿絵の並べ替えをしながら、時・場所・人物・出来事（作品の設定）とあらすじの概観をとらえる。 ○地の文と会話文を区別し、誰の会話文か登場人物のマークを書き込む。	【読ウ】挿絵をもとに人物の行動や会話文に注意しながら、設定を読み取っている。（発言・観察） 【伝国(1)イ(カ)】地の文における主語と述語をとらえている。（ワークシート・発言）
	4	一 の 場 面 ○音読劇の仕方とその手順を知る。 ○がまくん、かえるくんの行動や会話文を見つけて線を引く。 ○線を引いた部分の読み方とその理由について、各自の考えを書き込む。	【読ウ】お手紙を待つがまくん、かえるくんの様子を想像し、読み方とその理由を書き込んでいる。（ワークシート・発言）
	5	○書き込んだ読み方とその理由をグループ毎に交流する。 ○役割分担をして読み合わせをする。 ○場面の様子を想像しながら、叙述と書き込みをもとに音読劇をする。	【読ウ】お手紙を待つがまくん、かえるくんの様子を想像し、書き込みを加えたり直したりしている。（ワークシート・発言）
	6	四 の 場 面 ○がまくん、かえるくんの行動や会話文を見つけて線を引く。 ○線を引いた部分の読み方とその理由について、各自の考えを書き込む。	【読ウ】お手紙について話すがまくん、かえるくんの様子を想像し、読み方とその理由を書き込んでいる。（ワークシート・発言）
	7	○書き込んだ読み方とその理由をグループ毎に交流する。 ○役割分担をして読み合わせをする。 ○場面の様子を想像しながら、叙述と書き込みをもとに音読劇をする。	【読ウ】お手紙について話すがまくん、かえるくんの様子を想像し、書き込みを加えたり直したりしている。（ワークシート・発言）
	8	二 ・ 三 場 面 選 択 ○グループ毎に場面を選択する。 ○がまくん、かえるくんの行動や会話文を見つけて線を引く、読み方とその理由について各自の考えを書き込む。 ○書き込んだ読み方とその理由をグループ毎に交流する。 ○役割分担をして読み合わせをする。 ○場面の様子を想像しながら、叙述と書き込みをもとに音読劇をする。	【読ウ】お手紙を書くかえるくん、お手紙を待つがまくんの様子を想像し、読み方とその理由を書き込み、相談して書き込みを加えたり直したりしている。（ワークシート・発言）
第3次	9	○並行読書をした本の中から、グループで1作品を選び、音読劇に表す場面と役割を決める。	【読ウ】行動と会話に着目し、音読劇に表すことを考えながら、作品や場面を選んでいく。（ワークシート・発言）

ひろげる	10	並行読書 ○がまくん,かえるくんの行動や会話文を見つけて線を引く。 ○線を引いた部分の読み方とその理由について,各自の考えを書き込み交流する。	【読ウ】がまくん,かえるくんの様子を想像し,読み方とその理由を書き込み,相談して書き込みを加えたり直したりする。 (ワークシート・発言)
	11	作品 ○場面の様子を想像しながら,叙述と書き込みをもとに音読劇の練習をする。 ○他のグループからのアドバイスをもとに,練習を見直す。	【読ア】音読劇の仕方を見直し,場面の様子が分かるように読み方を工夫している。 (ワークシート・音読・観察) 【関】友達からのアドバイスを聞き合い,よい読み方になるように話し合っている。(観察)
	12	○場面の様子を想像しながら,叙述と書き込みをもとに音読劇の発表をする。 ○各グループの音読劇について,感想を交流する。 ○「音読劇」という活動をして分かったことを確かめる。	【読ア】読み方や動きを考え音読劇をするとともに,よい読み方や動きについて感想を書き,発表している。(ワークシート・発言)

#### 4 本時の指導 (7 / 12 時)

##### (1) 目標

登場人物の行動と会話文から場面の様子をとらえ,読み方を考えて音読することができる。

##### (2) 指導の手立て

研究主題と関わり,本時では,考えを形成し表現できるようにするために,以下のような手立てを組む。

- ①自分の考えた読み方とその理由が適切か,叙述を基に確かめるためグループで交流する。
- ②読みを確かなものとするために,グループ音読劇の練習を見合い,根拠を明らかにしながら感想を述べ合う。

##### (3) 展開

	学習内容 (番号) と主な発問・指示 (○)	指導上の留意点 ◎【評価】(方法)
みとおす 5分	<b>1 前時の学習を想起する。</b> ○したことと会話文に気をつけて,どのように読んだらいいか書き込みをしましたね。  <b>2 学習課題を確認する。</b> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">             四の場面の音読げきをしよう。           </div> <b>3 解決の見通しを立てる。</b> ○グループで読み方を確かめ合い練習したら,他のグループにも聞いてもらい,様子がよく分かる音読劇にしましょう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音読劇の仕方を確認する。</li> <li>・最終目標である「かえるくんとがまくんの出てくるお話の音読劇をしよう」につながる学習であることを意識させる。</li> <li>・行動と会話文に気をつけながら読んでいくことを確認する。</li> <li>・グループ学びからグループ間どうしの教え合いへとつなぐことを確認する。</li> </ul>
ふかめる	<b>4 学習課題を解決する。</b> (1)場面についての互いの読みを確かめる。 ○書き込んだ読み方と,そう読みたい理由をグループで話しましょう。 ・「きみが。」→かえるくんが自分にお手紙を書いたと分かってびっくりしたから,大きな声で読むといい。 ・「ああ。」→とても嬉しいので,ゆっくり優しい声で読むといい。 ・「ふたりともしあわせな気持ちで」→嬉しそ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・司会役の児童に進行させる。</li> <li>・順に各自の書き込みを発表させ,お互いの発表を聞いて同じか違うか,違うのならどのように違うのかを確かめさせる。</li> <li>・全員の発表が終わったら,読み方についてグループで相談し,どのように音読したら場面の様子が聞く人によく伝わるか考えながら,読み方をまとめさせる。</li> </ul>

<p>ふかめる</p> <p>30分</p>	<p>うに明るい声で読むといい。</p> <p>(2)読み取ったことを音読劇に表す。 ○役割を決めましょう。</p> <p>○グループで確かめた読み方をもとに、読み合わせをしましょう。</p> <p>○読み合わせと一緒に動きも考えましょう。 ・「お手紙になんて書いたの。」→お手紙に何と書いたか知りたいから、ベッドから起き上がってかえるくんのそばに来たと思う。 ・「ふたりとも、とてもしあわせな気持ちで、そこにすわっていました。」→肩を抱き合っ て優しい目でポストを見ているといい。</p> <p>(3)発表を聞き合い、読み取りを確かめる。 ○他のグループの音読劇を見聞きし、自分たちのものと比べましょう。何が同じですか。何が違いますか。 ・「ああ。」の会話文を、ぼくたちはゆっくり読んだけど、○班は明るい声ではっきり読んでいたところが違います。その読み方もいいと思います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えがどのように変わったか分かるように、書き足しや書き直しは色ペンを使わせる。</li> </ul> <p>&lt;グループへのアドバイス&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一の場面で読み取ったがまくんの様子と音読の仕方を振り返り、状況の変化を対比させ心情の変化をおさえる。</li> <li>・一の場面と三の場面の挿絵を比較し、二人の体の様子や表情の違いから、心情が変化し気持ちを通い合ったことを確かめさせる。</li> <li>・読みの根拠を明らかにして、書き込んだことが表現できるように、音読の仕方を考えさせ、友達と教え合いながら練習させる。</li> </ul> <p>◎【読む】お手紙について話すがまくん、かえるくんの様子を想像し、書き込みを加えたり直したりできる。(プリント・音読)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループの発表を聞き合いながら、読み方の相違点を出し合う。そして、叙述に戻って場面の様子を確認し、今後のグループ毎の練習に生かすよう働きかける。</li> </ul>
<p>まとめ</p> <p>10分</p>	<p><b>5 学習のまとめをする。</b></p> <p>(1)まとめの音読をする。 ○がまくんやかえるくんの様子がよく分かるように、まとめの音読をしましょう。</p> <p>(2)「学び方」を確認する。</p> <p>(3)次時の学習について知る。 ○次の時間は、二または三の場面をグループで選んで読み方を考え、音読劇にしていきましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師は地の文を、児童はがまくんとかえるくんの会話文を音読することを確かめる。</li> <li>・したことや会話文に気を付けて読むとよいことを確かめる。</li> </ul>

(4) 本時の評価

評価 (評価方法)	十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する 児童への手立て
<p>お手紙について話すがまくん、かえるくんの様子を想像し、書き込みを加えたり直したりできる。 (ワークシート・音読)</p>	<p>積極的に友達の書き込みとの相違点をみつけ、よりよい音読の仕方について、叙述をふまえて根拠をあきららかにしながら書き足したり書き直したりしている。</p>	<p>友達の書き込みの内容を聞き、よい音読の仕方について、叙述をふまえて根拠をあきららかにしながら書き足したり書き直したりしている。</p>	<p>自分の書き込みと友達の書き込みの違いを確かめさせる。 誰の書き込みがふさわしいか、登場人物の行動や会話から様子を考えさせる。</p>

	<p>&lt;期待される児童の例&gt;          ・「<u>ああ。</u>」のところを、○          ○さんは<u>ゆっくり読む</u>とい          ったけれど、私は<u>優しい声</u>  <u>でゆっくり読む</u>といいと思          います。どうしてかとい          うと、かえるくんが自分  <u>を親友と言ってくれたのがと</u>  <u>てもうれしいから、優しい</u>  <u>声で言ったらい</u>と思うか          らです。</p>	<p>&lt;期待される児童の例&gt;          ・○○さんの話を聞いて、          考えが変わりました。私          は、「<u>きみが。</u>」のところは  <u>大きな声で読む</u>といいと          思いました。どうしてか          いうと、かえるくんが自分  <u>に<u>お手紙を書いたと分か</u></u>  <u>ってびっくりした</u>からで          す。</p>	
--	--	---	--

(5) 板書計画

まなび方

音読のし方

場面4挿絵  
(玄関に座  
る二人)

「かえるく  
んが書いた  
お手紙」

場面4挿絵  
(窓辺に立  
つ二人)

場面3挿絵  
(ベッドの  
がまくん)

かだい

お手紙      アーノルド・ローベル 作・え      みきたく      やく

四の場面の音読げきをしよう。

「かえるくん、どうして、きみ、ずっと  
まどの外を見ているの。」

「だって、今、ぼく、お手紙をまっ  
ているんだもの。」

「でも、来やしないよ。」

「だって、ぼくが、きみにお手紙出  
したんだもの。」

「きみが。」 「お手紙に、なんて  
書いたの。」

「ぼくは、こう書いたんだ。」

「ああ。」 「とてもいいお手紙だ。」

ふたりは、げんかんに出て、お手紙  
の来るのをまっっていました。

ふたりとも、とてもしあわせな気  
もちで、そこにすわっていました。

「ぜったいむりだよ。」

「きつと来るよ。」

「もう、言っ  
てしまおう。」

「うれしいな。ありがとう。」

「本当なの。聞きた  
いよ。教えて。」

「ふしぎだな。」

「しんじて。」

大きい声↑ ↓ 小さい声      まをとる

はやく↑ ↓ ゆっくり      あげる↑ ↓ さげる

したこと、かわ文